No 9　　ガット　　1977.7.25　発行

ガット

東村山市民テニスクラブ協議会機関紙

発行責任者　柳　利夫
住　所　東村山市萩山町5－6－26－301
電　話　0423－92－8808
編集者　国川哲男
住　所　東村山市本町2－15－6
電　話　0423－94－1218

早急にコート増設運動を!!

広報部　国川哲男

我々の市民テニスクラブも発足以来4年目をむかえ，このたび新しい会則も出来，何とかクラブとしての形が出来て来たと思います。

私が当クラブに入部したのは約2年前ですが，当時は申し込めば，その場で入部出来，そのため，各クラブの会長も，自クラブ員の顔も名前も知らないという事もみられ，又，初心者向けの特別な練習も思う様に出来ず，その為，初心者の方もやめて行く方が多かった様に思われました。

その結果，昨年10月以降，協議会本部の体制強加がなされ，事務局・財務・技術・広報等の各部が設けられ，又新入部員の受け入れも年2回にする等，色々な面が改められ，不十分ながら，少しづつでも前進していると思っています。

このたび，新会則が出来，すばらしい理想を盛りこんだ前文に賛同した者としていまさらこんな事を言うのは気がひけるんですが，果してあの前文に書かれた精神が各クラブ員の中から，ほんとうにわきあがって来たものかどうかと言う事です。特に「市民のテニスをやりたいという要求には積極的に応えていきます」という所が一番問題になるんではないでしょうか。現在，最大限3面のコートを40～50名で使用しています。これが半年ごとに10名以上の人が入部してくると仮定すると今のコート数では満足出来る練習が出来なくなるのは時間の問題です。もちろん市民クラブだからしょうがないじゃないかと言われればそれまでですが，我々のほとんどの人がテニスが好きで，テニスをやりに来ているんであって，テニスの出来ないクラブになってしまえば，それが市民テニスクラブであろうが，クラブとしての存在価値はないに等しいと思います。我々のクラブはなぜ市民のテニスをやりたいという要求には積極的に応えていかなければいけないのか？　果してそれが会員全体の本心なのか。それとも一部の人の理想なのか。何となくそう決まってしまったのか。市のコートを使用している市民クラブなのだからか？　そのへんのところをもう一度，総会で自由な論議をかわし，本当に会員の多数がそう望んでいるのなら，早急に市に働きかけ，コートを増設してもらう様，運動を起さなければ，前文に書かれた理想の市民クラブは空中分解してしまう事でしょう。

東村山硬庭連　主催の行事予定

〔第2回指導者講習会〕

◎　8月12日，13日，26日，27日，9月3日の5回，土曜・18：00～21：00，
　　金曜・19：00～21：00

◎　市内所在のクラブ推選の中級以上の方

〔東村山秋季テニス大会〕

◎　9月18日（日）（予備日・9月25日）
　　男・女シングルス

◎　9月25日（日）（予備日・10月2日）
　　男・女シングルスと男・女ダブルス

◎　10月2日（日）（予備日・10月16日）
　　男・女ダブルス

◎　10月16日（日）（予備日・10月30日）
　　壮年シングルスと混合ダブルス

△　市内在住・在勤厳守，市報8月15日付に発表。
　　シングルス　300円。　ダブルス　500円

〔東村山市内団体戦〕

○　11月6日　（予備日・11月23日）

△　市内にあるクラブ

(1)　シングルス　No.1，No.2，No.3。

(2)　ダブルス　No.1，No.2。

1チーム　3,000円

私とテニス

恩多クラブ　栗原　千枝子

十？年，子育てに追われ通しの生活から解放され，やっと自分を見つめるゆとりが出てきたそんな時期に，都心のゴミゴミした社宅生活に別れを告げて緑濃き東村山に狭いながらも我家を持つことが出来ました。一面のさつま畑と栗林を眺めているうちに運動嫌いの私も何か大自然の中で跳びはねてみたくなりました。

そんな気持から，一昨年5月，市の軟式テニス講習会を知り参加しました。始めて買ったテニスシューズを持って5，6才も若返った様なうきうきした気分で自転車を踏む足も軽ろやかに……。新緑の木々，青い空の下での講習会のスタートでした。

一日目，始めて振ったラケットを何度か振っているうちに当り出した。コーチに「グー」を云わ[illegible]ってしまう私。一日目は[illegible]して〝これはいける〟。

二日目，バックバンドに入った。何球か打っているうちに右腕がピリピリ痛み出した。〝これはおかしい〟。ここで止めておけばよかったのに無理して続けてやった。ついにラケットを持つ手が横にも動かなくなってしまった。あわてて接骨院で診てもらったら，今迄使わなかった腕を急激に使った為，腕の三角筋がズタズタになったのだと云われ，三ケ月間は激しい運動は慎しむようにとのこと。其の後通院一ケ月，一週間位は包丁を使うことも出来ず（主婦失格）後悔先に立たずと云ったところでした。

こんなわけで，最初の私とテニスとの出合いはあっけなく二日間で終り，以来バックバンド後遺症（恐怖症）だけが残り，これでテニスへの最初の挑戦は見事に失敗に終りました。

目下は硬式に変えての二度目の挑戦というわけです。クラブ員の皆様の親切なご指導をいただき，少しテニスのおもしろさと難しさとがわかりかけてきたような現在です。テニスと私との付合いを末永く続けられるように主人迄引張り出して夫婦でお世話になっております。そんな私ですが今后共よろしくおねがい致します。

春季大会をふりかえって

去る5月28日，29日の両日恒例の春の市民庭球大会の男女ダブルスが市営運動場公園で開かれました。今春は，申し込み段階で男子67組，女子25組と春としては前例のない多数の参加が表明されましたが，当日棄権が男子11組，女子2組とと相当数にのぼり，結果的には例年とほぼ同じ参加者になりました。顔ぶれも昨年とそれ程変っておらず，やや新鮮味に欠けたきらいがありました。技術的には，No.Ⅱシードが他に比してやや安定していた以外はさほど差がないように思われました。ただグリーン・クラブの岡本のサーブは相当威力を持っており，今後が楽しみです。

市民テニスクラブからの参加者が全参加者にしめる割合は男子28％，女子35％と相当高く，その成長ぶりがうかがえます。

試合内容では[illegible]欠け，二人でシングルスの感がまだまだ強く感じられ，女子では何といってもよく走り，よくねばるチームが勝ちを物にしていました。なかでも武谷・山口，広川・田川の両組は，ボレー・スマッシュ等，他よりも一日の長が感じられました。男女共，今後は戦術的には，つなぐべきときには確実につなぎ，チャンスがくれば思いきって決めていくよう，1＋1が2以上になるようペアーが努力するべきでしょう。個々の技術では，レシーブのイージーミスが相当目だちました。これは最悪です。特に男子の場合はボレー，スマッシュの安定が強く求められます。

最後に運営面で，試合は日程どおり終了しましたが，相当ゴタゴタが生じ，大変御迷惑をおかけしたことを反省すると共に，今後の教訓としたいと思います。

▽男子

決勝　石川・白石（一般）$\begin{pmatrix}7-6\\6-3\end{pmatrix}$鈴木・小池（日ペル）

三位　武谷・長井（東住ク）$\begin{pmatrix}7-6\\6-2\end{pmatrix}$宝徳・福村（日機装）

▽女子

決勝　武谷・山口（東住ク）$\begin{pmatrix}7-5\\6-4\end{pmatrix}$広川・田川（東住ク）

三位　新井・藤宮（美住ク）$\begin{pmatrix}6-4\\6-0\end{pmatrix}$健山・三宅（日ペル）